



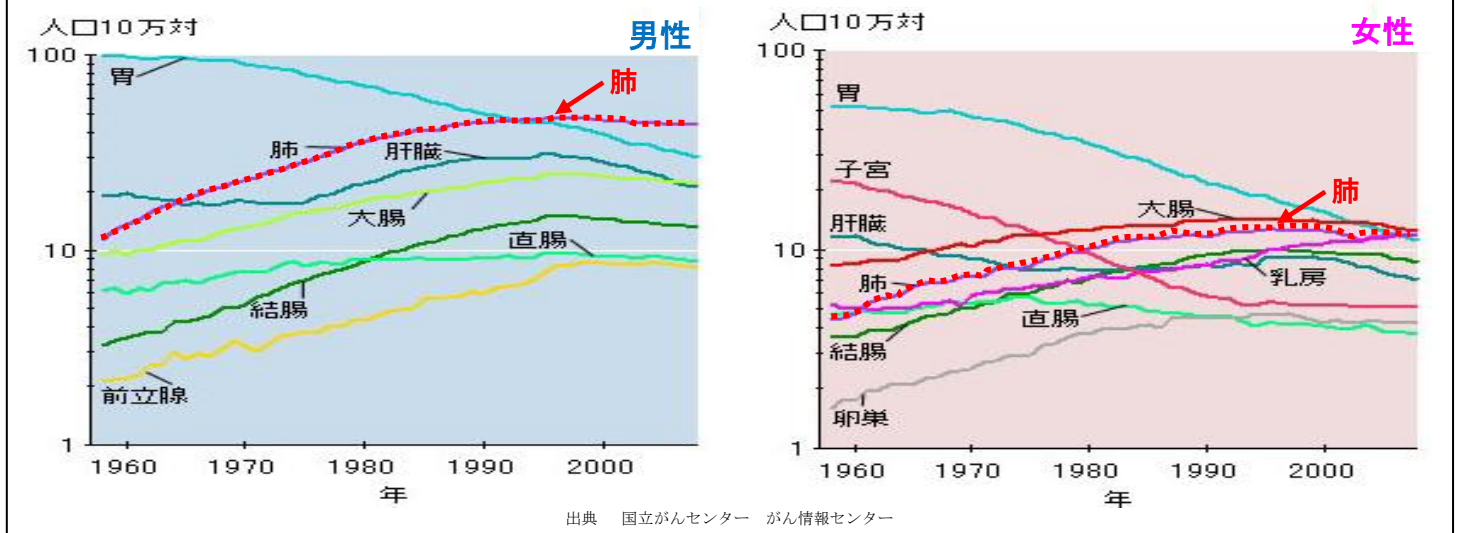
財団法人早期胃癌検診協会

News Letter

第3版：発行日 平成22年9月22日

マルチスライスCTによる肺がん検診を！

がんの主な部位別死亡率の年次推移



がんによる死亡率の第1位は「肺がん」です

わが国のがん死亡は、2007年の調査によると、死亡数33万6千人で、男性が女性の1.5倍となります。そのうち男性で最も多いのが肺がんで全体の24%を占め、次に胃がん、大腸がん続きます。一方、女性で最も多いのは大腸がんで全体の14%を占め、次に肺がん、胃がんという順になります。男女を合わせると肺がん、胃がん、大腸がんの順となり、部位別がんの死亡率は肺がんが第一ですが、CT検査により早い段階で早期がんが発見できます。

16列マルチスライスCT

当協会では、16列マルチスライスCTを導入し、主に肺がんの検査を行っております。CTが16列と多列のため、検査時間が従来の半分(10秒)程度、また被曝線量も少ないのが特長です。この16列マルチスライスCTは、3次元画像の構築も可能で、肺の気管支を立体的に表現し、より詳細に病変を観察することが可能です。



当協会の16列マルチスライスCT

肺がんについて

▶ 肺がんの発生

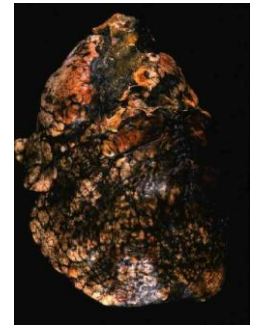
肺がんは、肺の細胞が正常な機能を失い、無秩序に増えることで発生します。なぜ細胞ががんになるのかは解明されておりません。がんは周囲の組織や器官を破壊して増殖しながら、他の臓器に拡がっていきます。他の臓器にがんが拡がることを「転移」と呼びます。

▶ 肺がんの原因

肺がんは、その原因が喫煙にあるといわれ、肺がん患者のうち、男性の68%、女性の18%がタバコが原因といわれています。肺がんの発生率は、タバコを吸っている人は吸わない人に比べ、男性で4.4倍、女性で2.8倍ほど高くなります。また、本人が吸わなくても周りが吸っていること（受動喫煙）で、肺がんのリスクが高くなり、受動喫煙の無い方に比べて20～30%程度高くなるといわれています。



タバコを吸わなかった
きれいなピンク色の肺



長年タバコを吸っていた
タールで黒く汚れた肺

出典 香川県立保健医療大学

▶ 早期発見の有効性

わが国で最も発生頻度が高い腺がんで見ると、治療開始からの5年間生存する割合(手術をした場合の5年生存率)は、早い段階で見つかりと70%と高い生存率を示します。

しかし発見が遅いと、50%、25%と次第に生存率は低くなります。早い段階での発見が鍵となります。

病期(進行度)	生存率
I期 (大きさが3cm前後で転移なし)	70%
II期 (大きさが3cm前後で肺門リンパ節に転移あり)	50%
III期 (大きさが3cm以上で肺門リンパ節、食道、心臓のリンパ節への転移あり)	25%

1年に1回、肺がん検診を受けましょう!

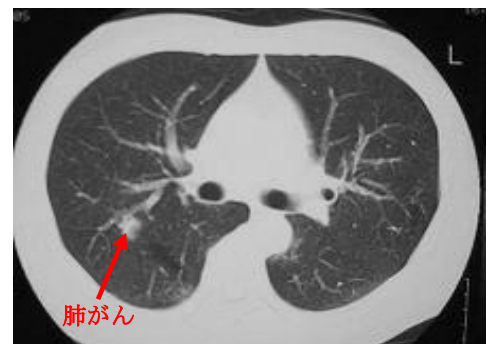
▶ 肺がん検診(CT検診の有効性)

肺がん検診は、胸部X線検査、喀痰細胞診検査、CT検査などで行われます。CTによる検査は、他の検査に比べ、以下のような利点があります。

- ・ 直径数ミリの小さい病変でも描出できます。
- ・ 肺を輪切りで見るため、死角がほとんどありません。
- ・ 特に、早期の肺がんの発見に威力を発揮します。

▶ CT検診を受けていただきたい方

- ・ 喫煙者
- ・ 50歳以上
- ・ 血痰や頑固な咳などの症状がある方
- ・ 肺がんが心配な方
- ・ 周りに喫煙者が多い方



最新型マルチスライスCTで
7mmの肺がんを認める

CT検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6800へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。

今後ともよろしくお願いたします。

財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6801 / E-mail:mail@soiken.or.jp